

拝啓 檀信徒の皆様におかれましては益々御清祥の事とお喜び申し上げます。日頃、眞観寺にお心をお寄せいただき有難うございます。

今年も早いもので年の瀬となり、新しい年を迎えます。

瑞光満ちる平成二十六年元旦、恒例の元朝護摩を観音堂で厳修いたします。

護摩祈願（護摩札）を御希望の方は、左記の「小見眞観寺元朝護摩」をご一読の上、同封のハガキに住所・氏名・年齢・願意を書いてご返送ください。

お申込みはファックス（〇四八―五五六―二二〇〇）でも受付けます。

複数体の申し込みの方は、眞観寺に申込書があります。折り返しお送りしますので、電話〇四八―五五六―二六七八までご連絡下さい。遠方の方には護摩札を郵送致します。送料は無料です。ご遠慮なくお申し込み下さい。

合掌

平成二十五年十二月

眞観寺住職 中村 重継

檀 信 徒 各 位

## 小見眞観寺元朝護摩

・ 日時 平成二十六年 元日 午前十時より

・ 場所 眞観寺観音堂 正観音菩薩御宝前

### 護摩（ごま）とは

護摩は正しくは「護摩修行」と言います。真言密教の修行の一つで、護摩火中に仏を招来し、御仏の真体を観じます。

護摩によって煩惱を焼き浄め、大厄を消除し、家内安全、身体健全、商売繁盛等、開運を祈願します。

### 護摩の願意について

護摩の願意は自由です。眞觀寺の護摩は祈願と滅罪の護摩です。左の代表的なお願ひがあります。

- ・ 災厄やくよけ消除
- ・ 交通安全
- ・ 身体健全
- ・ 商売繁盛
- ・ 傷病平癒
- ・ 大願成就
- ・ 合格成就
- ・ 就職成就
- ・ 工事安全
- ・ 労災絶滅
- ・ 従業員安全
- ・ 事業繁栄
- ・ 方除
- ・ 火難除
- ・ 御礼
- ・ 家内安全
- ・ 身上安全
- ・ 延命長寿
- ・ 当病平癒
- ・ 心願成就
- ・ 開運満足
- ・ 学業成就
- ・ 工場安全
- ・ 勝利祈願
- ・ 商売繁盛

(お願ひがかなったときに)

男女大厄	大 厄			小 厄			厄 年 早 見 表
	後厄	本厄	前厄	後厄	本厄	前厄	
昭和29年生まれ	昭和47年生	昭和48年生	昭和49年生	平成元年生	平成2年生	平成3年生	男性
	昭和56年生	昭和57年生	昭和58年生	平成5年生	平成6年生	平成7年生	女性

護摩札は一体に付き一願意です。護摩の準備の都合がありますので、なるべく十二月二十八日迄に早めに申し込み下さい。  
 護摩祈願料は三千円です。祈願料は申込時だけでなく、元旦に持参されても大丈夫です。

尚、遠方の方は護摩札の郵送(送料無料)と併せて銀行振り込みをご活用下さい。

群馬銀行 行田支店 (374) 普通口座0178339 口座名義 シュウ シンカンジ

## 眞観寺正観世音菩薩御開帳の歳

平安時代の定朝様式を現在に伝える眞観寺の観世音菩薩様は普段は秘仏とされ、厨子の中に祀られています。

平安時代末に荒廃していた所を中興瀧憲阿闍梨に見出され再興されました。以来、文亀年間（千五百年頃）足利方（古河公方）の兵火に罹った事もありました。また、忍城水攻めの際には石田方の兵火に遭いました。そのような災難を乗り越え、千年近い歴史を現在に伝えていきます。

秘仏の観音様の御開帳は江戸時代には住職一代に付き一度、明治以降は甲午きのえうまの歳のみとなっていたものを昭和初期から午年に一度の御開帳としています。

来年、平成二十六年は甲午歳にあたり、御開帳の歳となります。季節の良い十一月頃に御開帳を予定して居ますが、古式に則り、開帳祈願護摩を修行し、良い結果が出たら開帳と致します。

## 新総代古川茂氏

八月十五日の施餓鬼法要の際にご報告致しましたが、眞観寺の新世話人総代として小見の古川茂氏が就任致しました。

平成二十六年御開帳は古川新総代と世話人方とよく相談して進めたいと思います。今後ともお力添えの程、よろしくお願いします。

企画展  
観音霊場と武士

平成25年12月7日(土)～平成26年2月23日(日)

埼玉県立嵐山史跡の博物館  
〒385-0221 埼玉県比企郡嵐山町菅谷757  
TEL0493-62-6896 FAX0493-61-0660  
http://www.ranzan-shiseki.spec.ed.jp/

開催時間：9時～16時30分(入館は16時まで)  
休館日：毎週月曜日(但し、12月23日、1月13日は開館)  
年末・年始(12月29日(日)～1月3日(金))

観覧料：一般 100円、高校生 学生 50円  
中学生以下の方、障害者手帳をお持ちの方(付添1名まで)は無料  
(団体は20名以上 一般 60円、高校生 学生 30円)

交通案内  
嵐山史跡の博物館(嵐山町菅谷)から徒歩15分  
バス：嵐山史跡の博物館(嵐山町菅谷) 及び嵐山史跡の博物館(嵐山町菅谷) 停留所

## 嵐山史跡の博物館

比企郡嵐山町に埼玉県立「嵐山史跡の博物館」があります。

現在、企画展示として「観音霊場と武士」が行われています。

上の写真が、企画展のポ

スターです。企画展は十二月七日～来年二月二十三日迄開催されています。このポスターの観音像が小見眞観寺の正観世音菩薩様の模像（レプリカ）です。模造は昭和五十一年に県立博物館の展示として作像されました。（こういつた模像を移動・展示するにも持ち主である眞観寺の許可が要るようです。博物館長より許可を求められたので、驚きました）

眞観寺の御開帳まで半年以上の時間があります。御開帳が待ち遠しい方は、まずはこちらの企画展に行かれるのも良いでしょう。入場料は大人百円、高校生、学生八十円、中学生以下無料です。

## 観音堂三百周年記念念珠

今年の元旦と盆受付の時に「観音堂三百周年記念念珠」の頒布を行いました。非常に好評を博しています。ご家族に向けに購入される方もいれば、法事の引き出物として購入される方もいます。皆様それぞれの思いあって使われているようです。

特に通夜や告別式の法要が終えた時、皆様は合掌にて住職を送ります。記念念珠は目立つのか、参列者の手を見ると見慣れた念珠がそこかしこに見え、「おつ、使われている」と、嬉しくなります。

来年の元旦も記念念珠を頒布致します。

ケヤキの念珠は一匝三千円（数珠袋付） 残り約百二十匝そう

羅漢松の夫婦の念珠は一箱六千円。 残り二箱

いずれも「小見観音」の刻印入りです。木製の念珠の良さは何と云っても積善の回向の徳を最期に持って行けることに尽きます。この機会にどうぞ。

## 児玉義隆師の伝授

十二月二日午後二時より、梵字悉曇ぼんじしつたん（梵字を書くこと）が専門の種智院大学児玉義隆副学長が眞観寺客殿にて真言宗智山派青年会員を対象に刷毛筆による梵字悉曇の伝授を行いました。

眞観寺は本堂内陣梵字の縁により、昨年引き続き二回目の伝授の開催寺院となりました。これは珍しい事です。

当日は二十八名の青年僧が眞観寺客殿に集まり、実際に刷毛筆はけを使いながら熱心に児玉先生の悉曇しつたん教授を受けました。

## 本堂のストーブを一台入れ替えました。

冬の本堂の暖房は石油ストーブで賄っています。

眞観寺の本堂は廊下も入れると六十三畳半あります。天井も十三尺(約四尺)もあるので、業務用の大型ストーブ二台で暖房しています。

このストーブは最初の点火時に半田ゴテのような電気ヒータでガス化した石油に火を付ける仕組みです。以前、西明寺で同型のストーブを十五年近く使っていたら、不点火となり、電気ヒータが真っ赤に焼けて金属の焼ける匂いが充満し、あわや、という事故がありました。これを教訓にして火災予防のため、定期的に取り替える事に致しました。

新鋭機は出力も大きいので、西側(女性側)に投入しました。ストーブ二台で一時間に二升も石油を使います。それでも、大寒の時季や雪の朝には朝七時に気温0度から暖房して、十時過ぎても十六度位にしかありません。その後は太陽も本堂に当たる時間になるので、法事が始まる頃には程よくなります。今年も大型ストーブ二台で頑張ります。

## 観音堂の鰐口の紐

甲午歳御開帳に向けて、観音堂の鰐口の紐を新しくします。正月には新しい紐がお目見えします。

## ホームページとフェイスブック

諸般の都合で「寺たより」が白黒印刷となりました。その分、フルカラーで寺庭が作ったホームページとフェイスブックがあります。都度、更新していますので、そちらもお楽しみ下さい。





# 般若心経を詠む会に講師を招きます。

毎年恒例となりましたが、九月から十二月まで、観音様の縁日である毎月十八日に「般若心経を詠む会」を開催しています。

今年最後となる十二月十八日の「般若心経を詠む会」では、上池守持宝院の副住職馬場隆法師ばばりゆうほうをお招きして、般若心経の伝授を致します。

馬場隆法師は昭和五十三年生まれ、京都本山で修行の後、高幡不動で研鑽を積んだ経歴を持ちます。当日は高幡流のゆつくりした般若心経を教授いただけると思います。

また、馬場隆法師は元朝護摩の祈願太鼓も奉納致します。音楽の感覚に優れた隆法師の講義をお楽しみ下さい。

日時 十二月十八日（水曜日） 十時～十一時半

場所 真観寺客殿

## ~~~~~ 来年の干支について ~~~~~

来年は午歳です。昔の人は方位に十二支を当てはめて表しました。左の図のように午は六時の方角です。

十二支を八方位に当てはめたので、午歳の守り本尊は観世音菩薩、と思いきや、観世音菩薩の弟である「勢至菩薩せいしほさつ」です。

観世音菩薩を知らない人は居ないと思います。しかし弟の勢至菩薩は知られていない存在です。一周忌の仏様は勢至菩薩です。

勢至菩薩様は「大威勢を持ち、大悲大慈に至る」を以て勢至菩薩と言います。衆生が地獄・餓鬼道に落ちないように救って下さる仏様で

す。写真にあるように合掌の形で表されています。一周忌

の時に住職は合掌について話すのはこの縁起によります。



午年の守り本尊

「勢至菩薩」 観音堂前の八体佛

